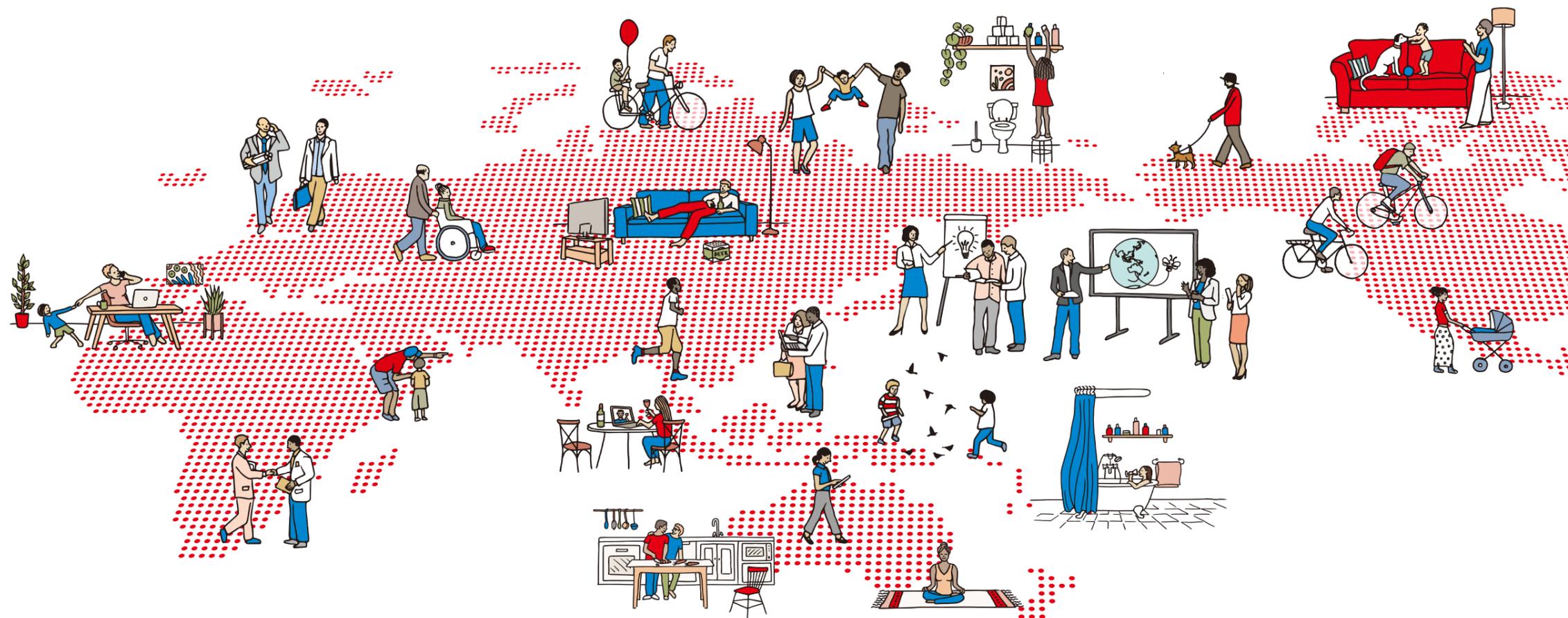


統合報告書 2025

アース製薬株式会社 統合報告書 2025

社外からの評価

- SOMPO サステナビリティインデックス**
 SOMPOアセットマネジメント株式会社独自のインデックス、「SOMPOサステナビリティ・インデックス」の構成銘柄に採用
- CDP**
 国際的な非営利組織であるCDPが実施する気候変動の取り組みと透明性を評価する調査において、気候変動・フォレスト・水セキュリティの3セクターを回答。気候変動、水セキュリティでB評価を獲得
- 健康経営優良法人2025～ホワイト500～**
 経済産業省と日本健康会議が共同で選ぶ「健康経営優良法人2025～ホワイト500～」に5年連続で認定
- 健康経営銘柄2025**
 経済産業省と東京証券取引所が共同で主催する「健康経営銘柄2025」に初選定
- 東洋経済CSR企業ランキング**
 株式会社東洋経済新報社の「2024年版CSR企業ランキング」CSR評価において、「人材活用」、「環境」、「企業統治」、「社会性」でAAAを獲得、各項目で高評価を獲得
- FTSE Blossom Japan Index status**
 環境、社会、ガバナンス (ESG) について優れた対応を行っている企業のパフォーマンスを測定するために設計されたESG投資指数であり、ESGに関する様々な基準を満たした企業で構成
- FTSE Blossom Japan Sector Relative Index status**
 GPIFのESG投資におけるパッシブ運用のベンチマークとして採用されている「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」に採用



用紙:印刷用紙は適切に管理された森林で生産されたことを示すFSC®認証紙を使用しています。
 インキ:100%植物性で生分解性に優れた「植物油インキ」を使用しています。
 文字:見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

発行 2025年7月
 Printed in Japan

アース製薬は 2025年に設立100周年を迎えました

アースグループ
経営理念

いのち
生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。

We act to live in harmony with the Earth.

Earth
Policy

アースポリシーは、経営理念達成のために不可欠な行動様式です。

お客様目線による市場創造
Creating a Market with customers

熱意・創意・誠意
Passion・Innovation・Integrity

すぐやる・必ずやる・最後までやる
Momentum・Achievement

Earth
Value

アースバリューは、事業を運営していく上で社員全員が持つ共通の価値観です。

全員参画
One Earth

コミュニケーション
Open communication

人がすべて
Diversity

企業ロゴのメッセージが意味するもの

アース製薬の企業ロゴの下にあるメッセージ「Act For Life」は、経営理念を英語で簡潔に表現したもので、商品・サービスの提供を通じて、人々の生命・生活(Life)に寄り添い、安全で快適な生活に貢献していく(Act)というアースグループのお客様との約束を表しています。

「地球を、キモチいい家に。」は、お客様との約束である「Act For Life」を日本語で親しみやすく、わかりやすい表現にしたものです。「キモチいい」は、安全で快適であることを表しています。

地球を、キモチいい家に。

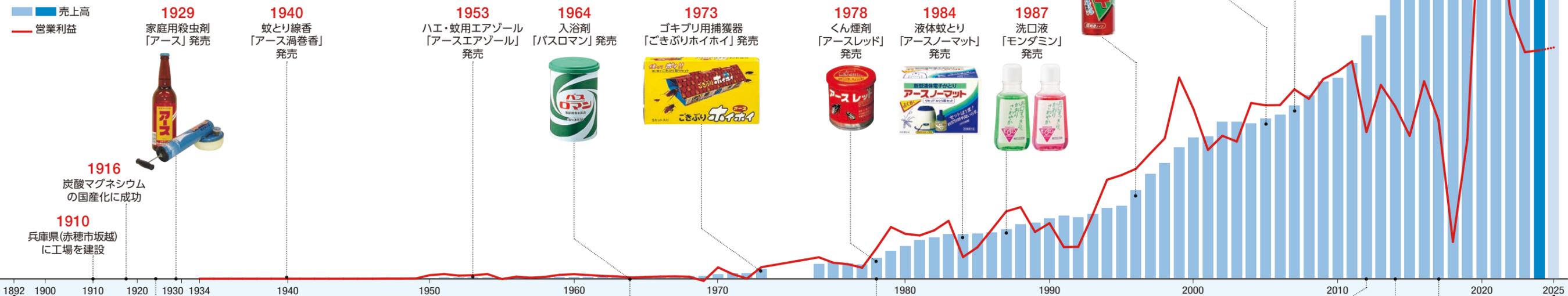


「安全で快適な暮らし」を届け続けて1世紀～アースの歴史～

アース製薬は、100年にわたって時代の変化に応える新たな商品・サービスを生み出し続けてきました。

アース製薬は1892年の創業、そして1925年の会社設立以来、「お客様目線」を大切に、新商品の開発と既存サービスの改良に真摯に向き合ってきました。設立100周年を迎えた現在は、国内のみならず国外で人々の健康と快適な生活の実現に貢献し続け、社会と共に着実な成長を遂げています。

売上高・営業利益の推移



※2022年以降は収益認識に関する会計基準を適用

1890～

炭酸マグネシウムの国産化に成功

1916年、天然ゴムの耐久性を高める特性がある炭酸マグネシウムの国産化に成功。アース製薬の前身である木村製薬所はにがり産業のトップランナーとなりました。殺虫ニーズの高まりを受けて殺虫剤「アース」を発売。無料配布などの販促活動によりニーズ拡大に成功し、アース製薬の認知度が全国的に広まりました。

1970～

大塚グループの資本参加

アース製薬は経営危機の状態に陥り、1970年、経営再建のために取引のあった株式会社大塚製薬工場に資金援助を要請し、故大塚正富氏を社長に招聘しました。また、1973年には「ごきぶりホイホイ」が発売され、爆発的なヒットにより累積赤字を解消、起死回生を果たしました。

1980～

綿密な市場調査でグローバル展開を推進

1980年のARS CHEMICAL (THAILAND) CO.,LTD. (現 Earth (Thailand) Co.,Ltd.) 設立を皮切りに、グローバル戦略を推進。国によって異なる生活習慣や嗜好性などを綿密に調査し、各国の特性に合わせたマーケティング活動を行っています。現在は世界約40カ国・地域に商品を輸出しています。

2000～

「殺虫剤」から「虫ケア用品*」へ

アース製薬の開発の歴史は、既存商品の改良の歴史とも言えます。競合商品を研究し、蒸気で薬剤を拡散させる「アースレッド」や強力な噴霧力の「ゴキジェットプロ」など、より効果のある商品を次々と開発。2017年には「虫ケア用品」という独自の用語を提唱し、消費者への配慮や商品の安全性、環境対応など、機能性の追求に留まらない商品開発に取り組んでいます。

*P.68「用語集」参照

- 海外展開**
- 1980 ARS CHEMICAL (THAILAND) CO.,LTD.(現 Earth (Thailand) Co., Ltd.)を設立
 - 1990 天津阿斯化学有限公司を設立

- 2004 アース環境サービス(株)が北京阿斯環境工程有限公司を設立
- 2005 安速日用化学(蘇州)有限公司を設立

- 2012 (株)白元が白元日用品製造(深圳)有限公司を設立
- 2015 安斯(上海)管理有限公司(現 安斯(上海)投資有限公司)を設立

- 2016 アース環境サービス(株)が上海安瞬環境工程有限公司、Earth Environmental Service (Thailand) Co.,Ltd.、ARS Environmental Service (Thailand) Co.,Ltd.を設立

- 2017 A My Gia Joint Stock Company (現 Earth Corporation Vietnam)を子会社化
- 2019 EARTH HOME PRODUCTS (MALAYSIA) SDN.BHD.を設立
アース環境サービス(株)が日商阿斯環境服務股份有限公司を設立

- 2020 アース環境サービス(株)がEarth Environmental Service Vietnam Co.,Ltd.を設立
- 2022 EARTH HOMECARE PRODUCTS (PHILIPPINES), INC.を設立

目次



第1章 「快適」を世界中に届ける

アースグループ経営理念	1
「安全で快適な暮らし」を届け続けて1世紀～アースの歴史～	2
目次	4
アースブランドは世界の人々の笑顔と共に～At a Glance～	6
社長メッセージ	8
アース製薬の価値創造プロセス	12
アース製薬の価値創造プロセス解説	14
ステークホルダーエンゲージメント	16
リスクと機会、マテリアリティ	18

第2章 価値創造のための戦略の実践

中期経営計画	20
財務戦略	24
アース製薬の人的資本経営	28
人財戦略	30
研究開発戦略 [本部長メッセージ]	32
研究開発戦略	34
家庭用品事業	36
総合環境衛生事業	40
特集 MA-Tシステム®の社会実装で「健康」と「快適な暮らし」を追求	42

第3章 ステークホルダーと共に「快適な暮らし」を守り、届ける

安心で快適な暮らしに貢献する製品・サービスの提供	44
気候変動への対応	46
地球環境問題への配慮	48
持続可能な調達	50
コンプライアンス	52
リスクマネジメント	53

第4章 「快適な暮らし」を創造し続けるための経営システム

社外取締役メッセージ	54
コーポレート・ガバナンス	56
役員一覧	62

第5章 データ

財務・非財務ハイライト	64
11カ年の主要財務・非財務データ	66
用語集／真正性表明	68
会社概要／株式情報	69

編集方針

「アース製薬 統合報告書2025」は、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様に、当社グループが創出する価値と、価値を創出し続けるための取り組みについてより一層ご理解いただくことを目的に制作しました。価値創造プロセスや事業、中期経営計画、マテリアリティへの取り組みなど、財務情報と非財務情報を一体的に報告することを主眼に置いて編集に当たっています。本報告書をもとに、ステークホルダーの皆様との対話を一層深めていければ幸いです。

対象期間 2024年度 (2024年1月1日～2024年12月31日)
※ 一部、同期間以降の活動内容を含みます。

対象組織 アース製薬株式会社および国内外のグループ会社
※ ただし、一部の報告事項は、アース製薬単体について報告しています。

将来見通しに関する記述について

本報告書で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、さまざまな要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おください。

※ 記載の数値は、桁数未満を切り捨てたものになります。このため、合計値が個々の数値の合計と一致しない場合があります。
※ 本レポートに記載されている商品名は、当社または提携会社の登録商標です。
※ 本レポートに記載されているコメント情報などは、適切に入手されたものです。

参考にしたガイドライン

- 国際会計基準 (IFRS) 財団「国際統合報告フレームワーク」
- 経済産業省「価値協創ガイダンス」



情報開示体系

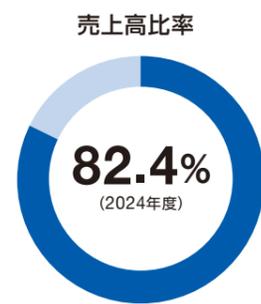


アースブランドは世界の人々の笑顔と共に～At a Glance～

アース製薬は、安全で、安心で、使うほどに心地よい毎日を実現するため、暮らしの中に寄り添った事業を行っています。家庭用品事業と総合環境衛生事業の2つの事業を通して、人々の健康で快適な暮らしを支えます。



売上高 **1,489億13百万円**



※売上高には内部売上高を含みます。

強みと注力分野

圧倒的なトップシェアを誇る虫ケア用品を中心に、入浴剤やオーラルケア用品、衣類用防虫剤、掃除用品、ペット用品など、日用品の幅広い領域で商品を展開しています。機動力・組織力を活かした売り場展開力で国内市場の活性化を進めるほか、グローバル展開にも注力し、海外への輸出展開は約40カ国・地域まで拡大しています。「お客様目線での商品開発」により社会のニーズに応え、社会から信頼される企業を目指しています。



主要商品

- 虫ケア用品 ・ハエ・蚊用:アースノーマット ・ゴキブリ用:ブラックキャップ
- 日用品 ・入浴剤:バスクリン ・洗口液:モンダミン

主なグループ会社

(株)バスクリン、白元アース(株)、アース・ペット(株)

売上高 **318億88百万円**



※売上高には内部売上高を含みます。

強みと注力分野

食品、医薬品から先端医療分野まで、異物混入や汚染から製品を守るために、「総合環境衛生管理*」という独自のサービスを提供し、事業所の品質保証活動を支援しています。バックボーンとなっているのは、大塚グループのGMPと現場で培ってきた独自の技術・ノウハウです。彩都総合研究所(T-CUBE)では、AIを活用した捕虫・分析システムの開発や、酸化制御技術の「MA-Tシステム®」を利用した除菌・消臭の産業応用などにも取り組み、社会に貢献する革新的なイノベーションを生み出す核としての役割を果たしています。特に未来医療・先端医療においては、再生医療分野における専門人材の育成や除染など衛生管理手法の開発およびNakanoshima Gross(未来医療国際拠点)への参画など、イノベーション創出に取り組んでいます。

*P.68「用語集」参照

主要サービス

- 各種環境モニタリング ・微生物・異物などの検査・同定
- ペストコントロール、微生物汚染防除 ・サニテーション、特殊清掃
- 品質保証システム構築・規格認証取得サポート、適合監査 など

主なグループ会社

アース環境サービス(株)

数字で見るアース製薬(2024年度)

アース製薬では、常に「お客様目線」を大切に努力を重ね、新商品の開発と既存サービスの改良に取り組んでいます。市場シェアはお客様の支持率と考え、安心して快適な暮らしに貢献する商品・サービスを提供し続けます。

財務

▶P.22

売上高 **1,692億78百万円**
前年度比6.9% ↑

営業利益 **64億25百万円**
前年度比0.9% ↑

ROE **5.1%**
前年度比1.2pt ↓

1株当たり年間配当金 **120円**
前年度比+2円 ↑
※1株当たり記念配当金2円を含む。

DOE **3.9%**
前年度比0.1pt ↓

アースブランドを支える力

「お客様のお気づきを活かす窓口部*」対応件数 **約90,000件**
*P.68「用語集」参照
▶P.45

研究開発部門に属する社員 **347名(連結)**
▶P.34

製造拠点数 **12カ所(グローバル)**
▶P.27

展開国数 **世界約40カ国・地域**へ輸出版売
▶P.38

総合環境衛生事業契約件数 **15,560社**
▶P.40

従業員エンゲージメントサーベイ **B**
※エンゲージメント・レーティングはAAA～DDの全11段階評価
▶P.31

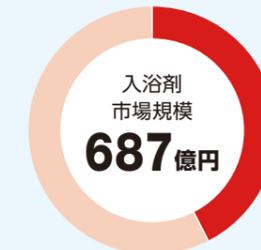
市場ポジション

虫ケア用品 国内シェア率 **57.3%**



出所:インテージSRI+ 殺虫剤市場(園芸剤除く) 全国計・全業態計 2024年1月～12月 累計販売金額

入浴剤 国内シェア率 **42.5%**



出所:インテージSRI+ 入浴剤市場 全国計・全業態計 2024年1月～12月 累計販売金額 ※アースグループ(アース製薬、バスクリン、白元アース)

社長メッセージ

100年の歩みを礎に、アースグループは新たな成長ステージへ。 ホールディングス機能の強化と共にグローバル展開を加速し、 世界中のお客様の快適な暮らしを支える未来を創造します。

利益は後からついてくる——未来への準備期間としての3年間

外部環境の影響を受けつつも、海外売上拡大・収益構造改革・グループ経営力強化が確実に進捗。

私は、課題というものはいつの時代にもあって、それいかにタイムリーに対応していくかが重要だと考えています。現在進捗している中期経営計画「Act For SMILE COMPASS 2026」は、気候変動や感染症の蔓延、資材の高騰や為替の変動、さらには消費者行動の変化など、外部環境が大きく動く中で策定しました。この中計の3年間は、大きな飛躍を遂げる前の「準備の3年間」と設定しています。中期経営計画初年度である2024年度を振り返ると、コスト高や円安といった利益に大きなインパクトがある状況の中でも、海外売上拡大、収益構造改革、グループ経営力強化に取り組んできました。

海外売上拡大については、すでに種まきのフェーズは終わっており、2024年度には売上高200億円規模に成長しました。海外の主力と位置付けているタイやベトナムでは、日本と同様にお客様の支持である市場シェアの獲得を目標としており、タイでの虫ケア用品シェアNo.1も視野に入ってきています。さらに、サウジアラビアや北米、香港、台湾などへの輸出事業にも注力し、さらなる海外売上拡大を目指しています。

また、グループ経営力強化と収益構造改革に取り組み、環境変化に柔軟に対応できる体質改善を図っています。当然のことながら、売上の向上とコスト管理による利益率の向上、この2つが経営強靱化の両輪となります。前者だけではガバナンスに課題が出がちとなり、後者だけでは会社の雰囲気はぎこちないものになってしまうでしょう。

私は、「利益は後からついてくる」という考え方を大切にしています。売上を最大化するためのアクセルを踏むとともに、コスト管理や人財の適材適所への配置など、組織の生産性向上に向けた取り組みを続けることで、2026年度の連結売上高1,700億円、さらには収益認識基準が変わる前の2021年に一度達成した売上高2,000億円*をターゲットに、着実に成長を遂げていきます。

グループのシナジーを最大化するためホールディングス機能の強化を図る

スケールメリットを活かし、戦略的な調達や経営判断をする時が来た。

アース製薬は、2012年にバスクリン、2014年に白元アースを子会社化し、さらには海外での事業展開やM&Aを積極的に進めてきました。その結果、違う文化を持った色々な会社があつたグループを作っています。これまでは、各社の自律性を尊重し、社員のコミュニケーションの活性化など企業文化の融合を優先してきました。しかし今後は、外部環境の変化に柔軟かつタイムリーに対応するために一定のルールを設け、グループ全体の効率化を図る必要があると考えています。

▶ P.20
中期経営計画
▶ P.24
財務戦略

▶ P.36
家庭用品事業

▶ P.56
コーポレート・ガバナンス

※旧会計基準で
2,500億円超の水準

アース製薬株式会社
代表取締役社長CEO

川端克宜

子会社に対しては、財務情報や仕入れ価格の見える化を促しつつ、各社が独自の判断を下せるようにしてきました。しかし、昨今の物価高や取引先との関係性を考えると、スケールメリットを活かし、戦略的な調達や経営判断をするべき局面にきています。各社単独での成長には限界があっても、グループとしての強みを活かすことで、個社の価値を最大限に引き出すことが可能です。この変化の時期、そして設立100周年を機に、各社の独自性を尊重しつつ、グループ全体としての最適な経営を実現することが重要だと考え、現在のアースグループにとってホールディングス機能の強化を進めることが最適であるとの判断に至りました。独立採算で自由度を担保するよりも、グループのシナジーを意識しながら一定の領域では統制を強化し、組織の方向性を明確に示していきたいと考えています。

ホールディングス機能の強化は経営のスピードを低下させると懸念されることもありますが、アースグループは柔軟かつ迅速に意思決定を行い、むしろ成長を加速できると考えています。各社が独自の判断で事業を進めている現状を踏まえ、新体制に移行することで、しっかりとグループ全体での戦略を立案し、グループが持つ資源をホールディングス機能がコントロールし、スピード感を持って進めていきます。

▶ P.20
中期経営計画

社長メッセージ

経営は生き物であり、時には新たな枠組みを導入したり、元の形に戻ったりすることもあります。変化に対応することは容易ではありませんが、今こそ実行の時です。ホールディングス機能の強化の意義を社内外にしっかりと伝えながら、より強固なグループ経営を目指してまいります。

「地球を、キモチいい家に。」に込めた思い

アースグループの方向性や価値観を、実際の行動につなげる。

変化の激しい時代において、企業が持続的に成長するためには、単なる対応ではなく、積極的に未来を描きながら進んでいくことが重要です。私がアースグループの経営に携わる中で、変化への対応の1つとして2017年にコーポレート・アイデンティティ(CI)の改定を行いました。これはただロゴを変えるだけでなく、企業としての方向性や価値観を再定義する重要なプロセスでした。

CIの刷新を決めた背景には、グローバル展開の加速がありました。当時のロゴにはカタカナ表記が含まれており、海外市場での認知を考えた際に適切な形へと進化させる必要があったのです。新たなスローガンとして「Act For Life」を掲げ、日本語では「地球を、キモチいい家に。」と表現しました。この言葉は、商品・サービスの提供を通じて、人々の生命・生活に寄り添い、安全で快適な生活に貢献していくというアースグループのお客様との約束を表しています。

「家」は、人にとって最も落ち着ける場所であり、安心できる空間です。私たちは、地球全体がそのような場所になるよう、商品やサービスを通じて環境をより良くしていきたいと考えています。また、社員にとって会社もそのような場になれるよう、働きやすい環境を構築していくことも重要です。CIの改定は、こうした価値観を明確にし、社内外へ共有するための大切なステップでした。

経営理念や「アースバリュー」「アースポリシー」も、ただ掲げるだけでなく、日々の経営に活かすことが重要です。理念は形だけのものではなく、実際の行動につながってこそ意味があります。そのために、最近では会議などの場で理念を意識する機会を増やし、組織全体で共有しながら運営しています。

「すぐやる」——これは前社長の犬塚達也がよく口にしていた言葉です。私もこの精神を引き継ぎ、理念や目標は言いつばなし、掲げつばなしにせず、すぐに対応していくことを重視しています。

自ら成長する人財を見出し、能力や個性を伸ばすことが経営の役割

会社に誇りを持ち、ここで働くことを「好きだ」と思える環境づくりに注力していく。

アースグループは、企業の成長において人財の重要性を強く認識しています。しかし私は、人は「育てる」ものではなく「自ら成長する」ものであり、それを見出すのが経営の役割だと考えています。多様な価値観や個性が集まることで組織は強くなります。だからこそ、特定のタイプの人財を育成するのではなく、それぞれが持つ能力や個性を活かし、誇りを持てる環境を整えることが重要です。

社員一人ひとりが「自分の会社は良い会社だ」と思えることが理想です。その基準は人それぞれですが、重要なのは心理的負担なく働き、自分の成長と会社の成長がリンクしていると感じられることです。組織運営においては、役割をガチガチに固定化するのを避けて、柔軟性を持たせることが不可欠です。野球にたとえるなら、「ここは自分の守備範囲じゃないから関係ない」と線引きするのではなく、互いに助け合いながら業務を遂行できる組織を目指しています。

また、組織が成長するにつれて役職や部署が増えるのは自然な流れですが、組織はシンプルであるべきだとも考えています。細かく分けすぎると柔軟性を損ない、協力体制を邪魔する可能性があります。だからこそ、成長とシンプルさのバランスを取りながら、柔軟で強固な企業文化を築いていくことが重要です。

どんなに優れた企業でも、完璧な組織は存在しません。他社の方が良い会社に見えることがあるかもしれませんがどの企業も課題を抱えながらもがいています。だからこそ私は、挑戦し続ける姿勢を大切にしたいと考えています。

アースグループは、2025年に100周年を迎えました。この節目にあたり、私が最もこだわるのは、「自由と成長が共存する環境をつくること」です。社員が自由に挑戦し、それぞれの能力を最大限に発揮できる環境を整えることが経営の責任だと思います。自由は決して無秩序ではありません。会社と社員が相互に支え合いながら成長することが大切だと考えています。私たちは、決められた枠に人を当てはめるのではなく、それぞれの個性を活かしながら成長できる場を提供します。社員が会社に誇りを持ち、ここで働くことを「好きだ」と思える環境づくりに注力し、心理的な負担を最小限に抑えながら、常に改善を続けていきます。

次の100年に向けてさらなる成長を目指す

アースグループの原動力は「お客様目線」を徹底的に追求するという信念と、変化に対応し続けながらチャレンジする精神にあります。100年の歴史を持つ企業として、これまで築いてきた価値を大切にしながら、グループ全体の力を結集し、急激な社会の変化によって生じる世界中のお客様の悩みに柔軟に対応し続けていきます。そして、安全で快適な暮らしを守ることを使命とし、日々取り組んでまいります。

アースグループは次の100年に向けて、持続的な成長と企業価値の向上を目指し、ステークホルダーの皆様とともに新たな価値を創造しながらより良い未来の実現に努めていきます。引き続き、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2025年3月
アース製薬株式会社
代表取締役社長CEO

川端 克宜

▶ P.1
アースグループ
経営理念

▶ P.28
アース製薬の
人的資本経営

▶ P.30
人財戦略

▶ P.1
アースグループ
経営理念

▶ P.32
研究開発戦略
[本部長メッセージ]

▶ P.16
ステークホルダー
エンゲージメント